

## 気候温暖化がクリの収量や品質に及ぼす影響

【要約】当県のクリ産地が気候温暖化の進行により、これまでより夏季（収穫前1か月）の気温が高く、少雨の環境となった場合、減収、品質低下を招く可能性があり、対策技術を開発する必要がある。

中山間農業研究所 中津川支所

【連絡先】0573 - 72 - 2711

### 【背景・ねらい】

気候温暖化の影響等から暖地のクリ主産地では、生産量や品質が不安定となっている。今後、温暖化の進行で県内でも同様の影響が懸念される。そこで、人工的に高温・少雨環境を再現し、夏季の高温・少雨がクリの収量性や品質に与える影響を明らかにする。

### 【成果の内容・特徴】

- 1 収穫前1ヵ月間（7～8月）を高温・少雨環境下（雨除けハウス内）で管理すると、その程度には差があるものの極早生品種（「えな宝来」）、早生品種（「ぼろたん」）ともに収穫期前の生理落果が増加する（図1、4）。
- 2 1果重は、高温・少雨環境下で小さくなる傾向にある。その程度は気温の高い時期に果実が肥大する極早生品種の影響が大きい（図2）。
- 3 総収量は、高温・少雨環境下で生育すると生理落果の増加や1果重の低下により、減少する（図2）。
- 4 果実品質は、不良果が増加し、その内訳ではシワ果の発生が増加する（図3、4）。
- 5 これらのことから、温暖化の進行で収穫期前の気温が高く、少雨環境となった場合は、減収、品質低下を招く可能性があるため、土壌水分を保持できる対策技術を講じる必要がある。

### 【成果の活用・留意点】

- 1 高温、少雨の対策技術は、現在検討中である。

【具体的データ】

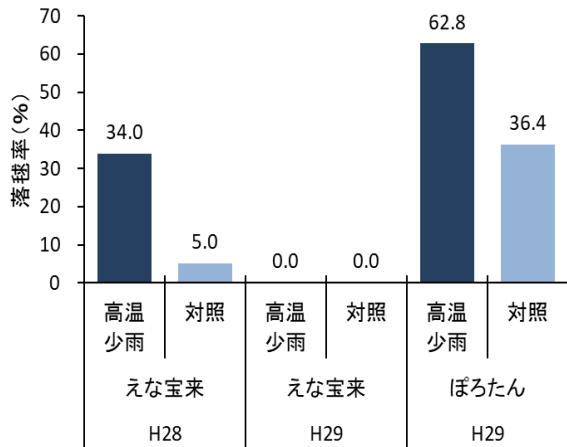


図1 夏季の高温・少雨条件が落穂率に及ぼす影響（平成28～29年）

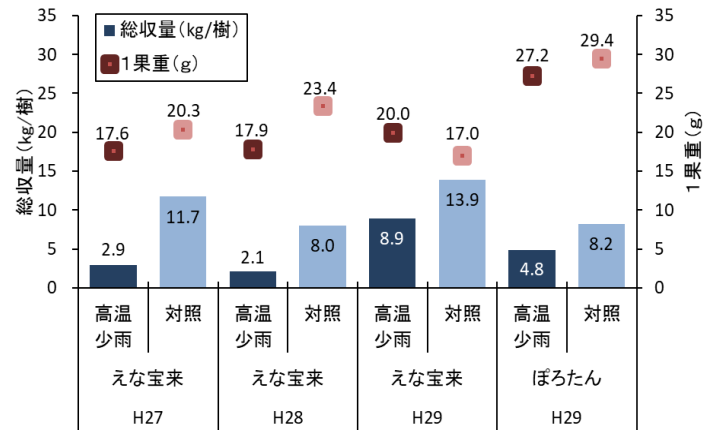


図2 夏季の高温・少雨条件が収量及び1果重に及ぼす影響（平成27～29年）

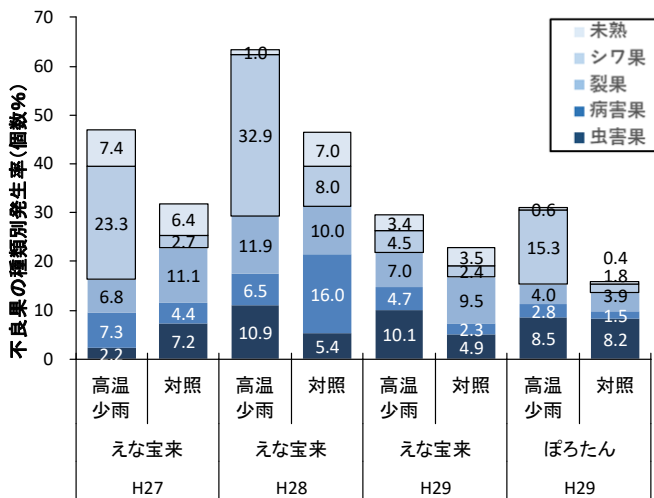


図3 夏季の高温・少雨条件が不良果の発生に及ぼす影響（平成27～29年）



図4 生理落果の様子（上）とシワ果（下）

研究課題名：熟成技術によるクリ新品種の商品展開（平成27～令和元年度）

研究担当者：磯村秀昭、荒河匠